

目に見えない制約の中での文化財保護活動

私たち高鷲文化財保護協会は、平成5年9月25日に13人で発足した団体です。その活動は、文化財保存奉仕活動及び文化財を守るための巡視活動、さらに親睦を兼ねた文化財についての見識を深める町内・郡上地域・県内・県外研修を行っています。また、会員が講師になって文化財講座を行ったり、高鷲町内にある文化財を拝観する地道な活動を行っています。

新型コロナウイルスは、新型コロナウイルスである[SARS-COV2]による感染症のことです。WHOはこのウイルスによる感染症を「COVID-19」と名付けました。2019年12月以降、中国湖北省武漢市を中心に発生し、短期間で全世界に広がりました。日本では今年になって新型コロナウイルスが猛威を振るっており、3月2日から小・中学校及び高校・支援学校が休校となり、さらに国は新型インフルエンザ特措法により日本全土に緊急事態宣言を発令しました。これにより日本全土が外出禁止、三密（密集・密閉・密閉）を避けるためにホームステイを命じ、日本人の社会生活・経済活動が停滞してしまいました。

高鷲文化財保護協会でもこの影響を受け、また会員の安全のためにステイホームを守り、そのため3月の旧年度第2回理事会、新年度第1回理事会、令和2年度総会、奉仕活動を中止し、書面報告としてその審議事項である事業報告・決算報告、事業案、予算案を皆様にお届けしました。さらに5月末からのギフチョウ巡回や、県博物館の高鷲開拓展視察や県外研修などを実施する予定です。

会員の高齢化が著しく、本会も他の文化関係の団体と同様に会員の減少が激しくなりました。皆様の近くの人をぜひ会員にお誘いいただき、仲間を増やそうではありませんか。

ギフチョウの巡回ご苦勞様でした！